

## 前橋城



前橋城は、はじめ厩橋城とよばれており、徳川家康の關東入国とともに天正18年(1590)平岩親吉が城主になりますが、慶長6年(1601)譜代筆頭格の酒井重忠が入城しました。この酒井家の時代に前橋城及び城下町は完成しました。

この絵図(縦64cm×横60cm)は、旧前橋藩士豊田家に伝わるものです。年次は不詳ですが、本丸には、天守閣に相当する三層の櫓のほか、二重櫓が二の丸・高浜曲輪などに建てられています。石垣はほとんど用いられず、土塁によって築かれました。

前橋城は、平城で、天然の要害利根川を西側に、北から東南へ流れる広瀬川を遠構えとし、本丸は東西70m、南北130m、二の丸は本丸を三方から囲む形で築かれ、三の丸(三ノ曲輪)は東西120m、南北250mで、さらに周りをいくつかの曲輪が囲むように築かれています。享保年中(1716~1736)の面積は約15万坪余(49万5000㎡)に及びました。南東部の防御が薄いため、侍屋敷を多く配置し、城の出入口近くには寺院を置いています。この前橋城は、利根川の浸食によって高浜曲輪・本丸まで侵されたため、明和4年(1767)藩主松平朝矩は城を放棄し、領内の武蔵国川越城へ移転しました。前橋城は、取り壊され陣屋が設置されました。

(参考資料)『群馬県史』通史編4 57~61頁、78~81頁  
『前橋市史』第2巻 603~610頁